



瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行 / カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

復活の主日A年（2026年5月17日）

主任司祭 小西広志神父

第一朗読：使徒言行録 1 章 1 - 11 節

第二朗読：エフェソの信徒への手紙 1 章 17 - 23 節

福音朗読：マタイによる福音書 28 章 16 - 20 節

イエスは近づき…

『マタイによる福音書』では、多くの場合に人がイエスさまに向かって畏敬の念を抱いて「近づく」ことはありますが、今日の福音朗読ではイエスさまご自身が弟子たちに「近づき」ます。「イエスは弟子たちに近づき、次のように仰せになった『わたしには天においても地においても、すべての権能が与えられている』」（28章18節 フランシスコ会訳）。

実は、イエスさまが近寄ってくる場面はもう一つあります。それはイエスの変容の箇所です。「イエスは近づいて、彼らに触れて仰せになった、『起きなさい。恐れることはない』」（17章7節）。どちらも、弟子たちが恐れている場面でイエスさまは自ら近づいてきます。そして、イエスさまは弟子たちを力づけ、励まして「人の子が死者の中から復活するまでは、今、見たことを誰にも話してはならない」（17章9節）と命じます。一方で今日の福音朗読では近づいてきたイエスさまが「父と子と聖霊の名に入れる洗礼を授け、……教えなさい。わたしは代の終わりまで、いつもあなた方とともにいる」（28章19-20節）と命じ、約束します。

高い山で姿が変わったイエスを見て、恐れている弟子たちにイエスさまは近づいてくれます。そして、復活なさったイエスさまを目の当たりにして恐れと疑いが生じている弟子たちの方へとイエスさまは近づいてくれます。こういうところにイエスさまの優しさを見ないわけにはいきません。そして宣教の使命が与えられているのは偶然の一致なのでしょう。すなわち、変容の場面の後で弟子たちはイエスさまと共に神の国の宣べ伝えますし、今日の箇所では山を降りて弟子たちは「命じたことを、すべて守るように」（20節）と宣教し始めます。

19節から20節に注目してください。「行って、弟子にしなさい、洗礼を授け、教えなさい」

この四つの動詞を心に留めましょう。命令法で書かれているのは「弟子にきなさい」だけです。他は分詞の形となります。それで、「行く」のは「弟子にする」ためであり、「洗礼を授ける」と「教える」は「弟子にする」ことの具体的な内容と考えたらよいでしょう。

『マタイによる福音書』では「弟子作り」がイエスの活動全体を彩ります。ガリラヤから始まった人々を弟子にするイエスの活動は（4章18節）、イエスの復活後は弟子たちに引き継がれていきます。そしてすべての民が弟子となります。

19節の「父と子と聖霊の名によって洗礼」は、直訳すると「父と子と聖霊の名の中に沈める・浸す」です。「名」は単なる呼び名ではなく、それそのものを表します。父と子と聖霊の神のいのちの中に招き入れるという意味です。いのちの中に深く結ばれるという意味となります。イエス自身の洗礼も、聖霊が降り、天からの声で、愛する子という宣言がなされました（3章16-17節）。

20節の「いつもあなたがたと共にいる」は、1章23節の「見よ、おとめが身籠って男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。この名は『神はわたしたちとともにおられる』という意味である」を思い出させます。「共にいる」神は、『マタイによる福音書』のテーマとなります。

行事のお知らせ

5月31日（三位一体の主日） マリア祭（ミサは10時30分より）

福島野菜販売、ドン・ボスコ社販売

6月7日（キリストの聖体） 初聖体（ミサは9時30分より）